4月23日　読売新聞に衝突警報装置XLAS-303の記事が掲載されました。

衝突警報装置に新機種

独自の標識認識機能追加

太田市強戸町の電子機械メーカー「ワーテックス」が、トラックや乗用車向けの新たな衝突警報装置を発売した。警報装置が標準装備されていない車両に後付けできる。

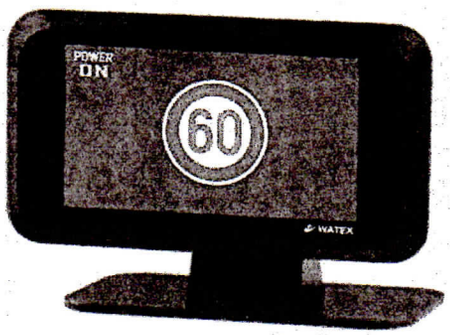
同社によると、車内のフロントガラスに取り付けたカメラ（高さ5・5センチ、幅9センチ）で前方の車両などを認識。運転席前のモニター（高さ5・2センチ、幅9・5センチ）の映像や音声で運転手に警告する仕組み。

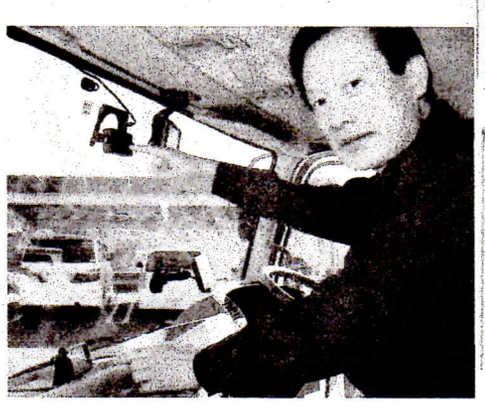
2年前に初めて発売した製品では、車線を逸脱したり、前方の車やバイクを検知したりした際に、衝突前に警告する機能が主体だった。新機種では①交差点や渋滞での低速走行時、前方の車やバイクに1～2メートルまで近づくと警告②前方の歩行者を検知し、衝突2秒前に警告③日中、制限速度や進入禁止の標識を認識してモニターに画像を表示――といった機能が加わった。

標識の認識システムは同社独自の技術で、初めての道を走る機会が多いプロドライバーに重宝されそうだ。

ブレーキとは連動していないが、安俊典社長は「居眠りや脇見の防止につながるほか、危険な運転にも警告するので、運転技術や燃費の向上にも役立つ」と話している。

販売価格は税抜き9万8000円、初年度の販売目標は1万台。問い合わせは同社東京営業所（03・6458・3988）へ。





上速度標識を表示するモニター（ワーテックス提供）下新しい衝突警報装置を説明する安社長。フロントガラス上部のカメラで車両や歩行者を認識し、下のモニターで警告する